

第2回 SSH 課題研究教員研修会

日時 令和5年9月26日(火)

場所 愛知県立一宮高等学校

講師 京都教育大学 名誉教授 村上 忠幸 先生

愛知県総合教育センター 指導主事 武田 邦生 先生

参加者 高校教員 38名 大学院生 1名

(海翔1名、津島3名、稲沢1名、豊野1名、西尾1名、刈谷北1名、江南1名、豊田西1名、春日井1名、春日井泉1名、半田農業1名、安城2名、犬山総合1名、三谷水産2名、半田1名、大府1名、一宮北1名、一宮南1名、一宮16名、名古屋大学大学院1名)

第1回教員研修会に引き続き、京都教育大学の村上先生から、生徒が自律的、主導的に探究に向かう態度を育成する上で有効となるコーチング、リフレクション、ファシリテーションについての講義、実習のご指導をいただきました。

午前、探究活動における個と集団の捉え方について、欧米教育と日本教育とで異なることや自由で協働的な探究学習を成立させるために必要な「学びの共同体」、「対等な立場」、「アウトプットに学ぶ」などの理論と実践的手法を学び、グルーピング理論(MI)の実習やペア活動としてコーチング実習を行いました。

午後に、「SSH 課題研究」の全体発表会の見学、探究活動「フーとハー」、デボノの帽子(省察)の体験、ALACTモデルを用いたリフレクション(メタ認知、コーチング)の実習を行いました。

参加者からは「コーチングの立場で生徒とともに授業を創っていける教師になりたいと思った」や「MIの有用性を実感できた」、「デボノの帽子など、メタ認知を促す具体的な方策が大変参考になった」、「研究発表会の様子が参考になった」などの感想を得ることができました。



講演会の様子



MIによるグルーピングの様子



「SSH 課題研究」全体発表会の見学



実習「フーとハー」の様子①



実習「フーとハー」の様子②



実習「ALACT モデル (リフレクション)」の様子